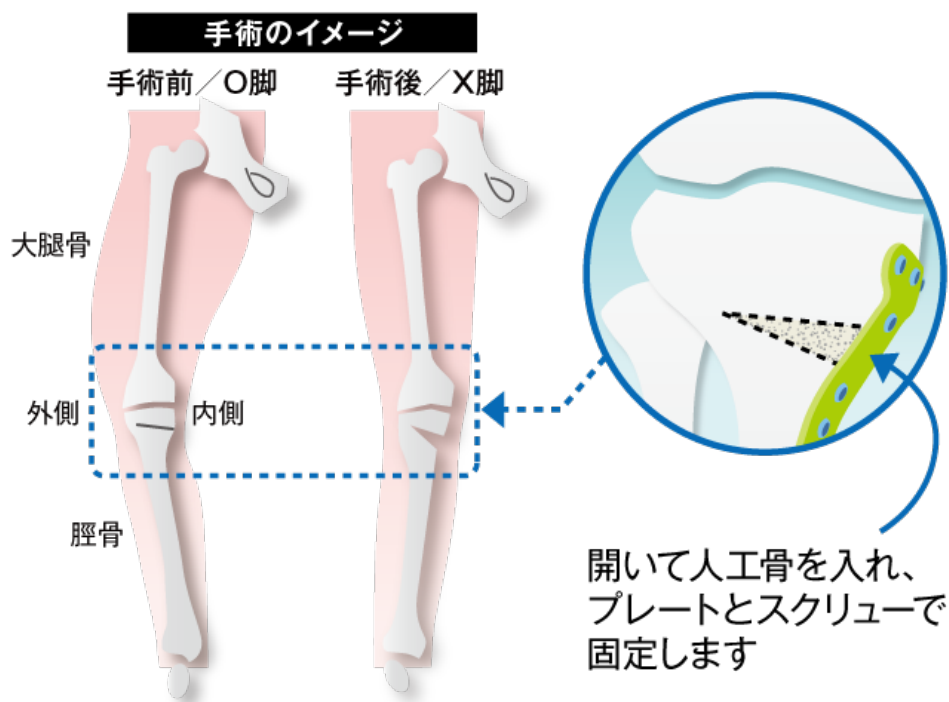


### 【高位脛骨骨切り術とは】

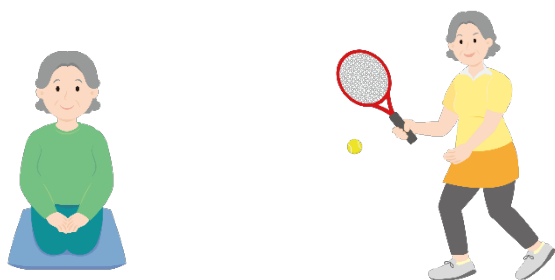
膝の変形や痛みが強くなり日常生活に支障が出現してきたときには、「人工関節置換術」という手術があります。これはすり減った膝の骨を削ってインプラントを挿入する手術であり、安定した治療成績が得られ、痛みを取り除くという点では非常に優れた方法です。しかし、インプラントを長持ちさせるため、手術後の日常生活には一定の制限が必要となります（重労働や激しいスポーツ活動は控えて頂く、等）。一方、高位脛骨骨切り術とは、自分の半月板を温存した上でO脚変形のために内側に偏った過重なストレスを、自分の骨を切り少し角度を変える事により正常な軟骨が残っている部分に体重がかかるように変形を矯正する手術です。この手術では自分の膝関節（軟骨、半月板）がそのまま残りますので、手術後、特に生活上の制限はなく（正座も多くの場合可能です）、スポーツや趣味、仕事など活動的な生活を継続することが可能です。



### ～高位脛骨骨切り術と半月板温存への取り組み～

我が国は超高齢化社会を迎え、「変形性膝関節症」の患者様は増加の一途を辿っております。治療に関しても関節鏡手術、人工関節置換術、膝周囲骨切り術、最近では再生医療も行われつつあり、種々の治療法が存在します。当科では全ての技術を有しており、患者様の病状を正確に把握し、適切な治療方法を選択・提案させて頂いております。

人生 100 年時代と言われ、「スポーツや趣味を継続したい」「活動的に行動したい」という御高齢の方が増えてきております。我々はそのような患者様の意思をできる限り尊重し、膝の状態に応じて自らの《膝》を残す事が可能な関節温存手術として「高位脛骨骨切り術」に「半月板修復術」を併用し、最適な手術を提供しています。



#### ～高位脛骨骨切り術の特徴～

##### メリット

- ・自分の関節（軟骨、半月板）を温存できる
- ・疼痛の改善
- ・スポーツ活動や重労働等への復帰・継続が可能
- ・消失した軟骨が再生する場合もある
- ・6割程度の方が手術後に正座が可能
- ・身体への負担が比較的少ない

##### デメリット

- ・矯正できるO脚の角度には上限があるため、高度な変形の場合には手術適応外になる
- ・骨が癒合するまでは痛みが若干続くため、松葉杖の使用期間がやや長め（約2か月）になる
- ・機能回復のためリハビリをしっかりと継続する事が必要

・体重が増えないように運動や食事に気を付けることが必要

～よくある質問～

Q：入院期間はどのくらいか？

A：状況で変わりますが、2週間程度で退院される方が多いです。

Q：手術はどのくらいの年齢まで可能でしょうか？

A：特に疾患が無ければ年齢による制限はありません。高齢でも活動性が高い方ならお勧めできます。

Q：術後、金属のプレートは抜くのですか？

A：希望があれば1年程度で抜く場合が多いです。疼痛や違和感など無ければ抜かない場合もあります。

Q：術後何年か経つと元通りになって、痛むことは無いのでしょうか？

A：骨切り術後に再度手術を受けなければならなくなるケースは、数パーセントと言われています。

Q：肉体労働やマラソン、登山、テニスなどしても問題ないのでしょうか？

A：退院後、回復すれば問題無く出来る様になります。